

2 環境保全交流推進事業

(1) 北東アジア地域自治体連合環境分科委員会の開催

ア 経緯

「北東アジア地域自治体連合」(NEAR)は、北東アジア地域における多地域間の交流、協力を積極的、円滑に推進するために、日本海を取り巻く日本、中国、韓国、ロシアの自治体による北東アジア地域自治体会議において提唱され、1996年9月に韓国慶尚北道で開催された会議で設立された。

また、1998年10月に個々のプロジェクトあるいは課題について、その円滑な推進を支援するため、5分野の分科委員会(経済・通商、文化交流、環境、防災、一般交流)の設置が決定された。

1999年7月に、第一回の「NEAR環境分科委員会」が開催され、本分科委員会の連絡、調整、運営を行うコーディネート自治体として富山県が選出された。

イ 環境分科委員会の目的

環境に関する個別プロジェクトの円滑な実施を図るため、自治体間の意見調整、事業計画の具体化及び実現方策等について、検討、協議等を行う。

ウ 会員自治体

環境分野に関心を有し、環境分科委員会に参加を希望した自治体

(16自治体)

日本：青森県、新潟県、富山県、石川県、福井県、京都府、兵庫県、島根県
…8

韓国：忠清南道…1

ロシア：ブリヤート共和国、サハ共和国、沿海地方、ハバロフスク地方、アムール州、イルクーツク州、サハリン州…7

エ 事業概要

(7) 会議の開催状況

a 第1回環境分科委員会

(a) 期日：1999年7月14日

(b) 開催地：富山県

(c) 参加自治体：19自治体(日本9、韓国4、ロシア2、中国3、モンゴル1)

(d) 会議内容

- ・ コーディネート自治体として富山県を選出
- ・ 環境協力の推進方策について検討し、個別プロジェクトの調査(提案調査、参加意向調査)の実施を決定

b 第2回環境分科委員会

(a) 期日：2000年8月2日

(b) 開催地：富山県

(c) 参加自治体：15自治体(日本8、韓国2、ロシア5)

(d) 会議内容

- ・ 1999年に提案された個別プロジェクトの実施状況報告
- ・ 今後、環境分科委員会を毎年開催することを決定

c 第3回環境分科委員会

(a) 期日：2001年7月12日

(b) 開催地：富山県

(c) 参加自治体：13自治体(日本8、韓国2、ロシア1、中国2)

(d) 会議内容

- ・ 2000年に提案された個別プロジェクトの実施状況報告
- ・ 2001年個別プロジェクトの提案及び実施状況報告
- ・ 次期コーディネート自治体として引続き富山県を選出

d 第4回環境分科委員会

(a) 期日：2002年7月11日

(b) 開催地：富山県

(c) 参加自治体：17自治体(日本8、韓国2、

ロシア 3、中国 3、モンゴル 1)

(d) 会議内容

- ・ 2001年に提案された個別プロジェクトの実施状況報告
- ・ 2002年個別プロジェクトの提案及び実施状況報告
- ・ 2003年提案個別プロジェクトの説明

(イ) 個別プロジェクトの実施状況

- ・ 2002年は8件の個別プロジェクトの提案があり、このうち次の4件のプロジェクトが実施された。(表1)

表1 2002年個別プロジェクト

個別プロジェクト名	提案自治体	参加自治体等	備考
日本海沿岸の海辺の埋没・漂着物調査	富山県	日本 9 ロシア 1	
北東アジアとの渡り鳥に関する共同調査	富山県	ロシア 1	
環日本海生物多様性シンポジウム	富山県	日本 5 ロシア 2	
北東アジア地域国際環境シンポジウム	新潟県 他 7 県	日本 8 韓国 1 ロシア 3	共同提案

- ・ 2003年個別プロジェクトの提案を調査したところ6件の提案があった。(表2)

表2 2003年提案個別プロジェクト

個別プロジェクト名	提案自治体
NEAR 環境分科委員会の環境行政に係る情報交流	富山県
農村地域の生活排水処理技術に関するシンポジウム	忠清南道
環境 NGO への行政参加に関するシンポジウム	忠清南道
北東アジア地域国際環境シンポジウム	青森県他 7 県
日本海・黄海沿岸海辺の漂着物調査	富山県
北東アジア地域との渡り鳥に関する共同調査	富山県

(2) 環境保全に関する会議等の開催

ア 国際環境協力推進会議

(7) 開催目的

我が国の日本海側自治体等が、対岸諸国との環境協力を推進するうえで必要な知識や情報などを得るために、1996年度より本会議を開催してきた。

今回の会議では、中国を対象とした環境協力をテーマとしており、日中環境協力の専門家による講演や自治体等の環境協力担当者による事例発表のほか、会議参加者との意見交換を行った。

(イ) 期 日：2002年7月12日

(ロ) 場 所：富山県民会館

(ハ) 主催者：(財)環日本海環境協力センター

(ニ) 内 容

a 講演

・「日本政府における日中環境協力事業について」

環境省地球環境局環境保全対策課

環境協力室 環境協力専門官 松葉 清

・「中国の環境政策（第十五次環境計画）について」

中日友好環境保護センター

顧問 全 浩

b 事例発表

・「中国陝西省における植樹・緑化活動について」

前京都府地球環境対策推進室長

北川 秀樹

イ 環日本海地域「山の生物多様性」国際シンポジウム

(7) 開催目的

近年、地球温暖化、砂漠化の進行、オゾン層破壊、酸性雨、森林破壊、天然資源の枯渇、深刻化する水不足、生物多様性の減少等、地球の限界を示すさまざまな問題が噴出していることから「無限の成長を前提とした世界観」から決別し、大気、水、土、そして生き物を

含む生態系を守り、持続可能な利用と自然の保全に努めなければならない。

そこで、自然環境の保全、生物多様性の確保について、環日本海地域に視点を置き、山岳分野を中心に検討を行った。

(イ) 期 日：2002年7月12日

(ウ) 場 所：富山県民会館

(エ) 主催者：富山県

(オ) 参加者：北東アジア自治体担当者50名及び一般約100名

(カ) 内 容

a 基調講演 「環日本海地域における生物多様性の現状と課題」

・講師 小島 覚氏(東京女子大学教授)

現在、地球上の生物種が恐るべき勢いで減少していることを紹介した上で、野生生物は人間に計り知れない恩恵を与えており、生物多様性の減少はやがて人間の生存にも影響を及ぼすことを解説し、環日本海地域、特に日本列島の山々は世界でも熱帯雨林地域に次いで生物多様性に富んだ地域であり、この生物多様性をどう保全するかは、国を越えて私たちに与えられた大きな課題であるとの講演があった。

b パネルディスカッション「ふるさとの山から生物多様性の保全を考える」

・コーディネーター

小島 覚氏(東京女子大学教授)

・パネリスト

劉 琪璟氏(中国科学院地理学・資源研究所教授)

阿部 學氏(日本猛禽類研究機構理事長)

鍛治 哲郎氏(環境省中部地区自然保護事務所長)

・ゲストレポーター

渡辺 綱男氏(環境省東北北海道地区自然保護事務所長、前環境省自然環境局自然環境計画課生物多様企画官)

青森、富山、島根各県より現場からの報告

(現状と課題)

・ゲストコメンテーター

中国、韓国、ロシアの環境担当参加者より感想を発表

劉氏は「長白山の植生と自然保全について」、阿部氏は「山岳地帯の生物多様性保全」、鍛治氏は「生物多様性の保全と国立公園の役割」と題し、それぞれの立場からの生物多様性の保全について報告があった。

渡辺氏は新・生物多様性国家戦略の概要について、特に山岳部の生物多様性に焦点を当てて紹介した。

また、青森県と秋田県にまたがる白神山地、富山県の立山及び島根県の三瓶山の自然保護の現状と課題について発表があった。

c 使用言語：日本語、韓国語、ロシア語、中国語、モンゴル語(同時通訳)

(3) 対岸地域との環境実務協議団の相互派遣 ア 目的

環日本海地域における環境保全の推進を図るため、韓国江原道に環境実務協議団を派遣するほか、他の対岸地域自治体から環境実務協議団を受け入れた。富山県が実施を予定している協力事業の説明や互いの環境の状況、環境保全対策の実施状況等の情報交換を行うとともに、今後の具体的な協力事業の実施に向けての意見交換を行い、相互の理解と協力を深めるものである。

イ 環境実務協議団の派遣

(7) 派遣期間

2002年10月7日～11日

(イ) 派遣者

富山県生活環境部

参事・環境政策課長 泉田 紘人
環境保全課 主 幹 岩田 助和

(ウ) 派遣日程

月 日	内 容
10月7日	・富山空港－仁川空港
10月8日	・ソウルから江原道への移動 (金浦空港－襄陽空港)
10月9日	・江原道環境政策課との実務協議 ・環東海出張所との実務協議
10月10日	・第1回海洋保全国際シンポジウムに参加
10月11日	・仁川空港－富山空港

※10月10日に開催された「第1回海洋保全国際シンポジウム」に参加するため、他に富山県立大学環境工学科 楠井隆史教授、富山県土木部河川課 松木俊二課長、(財)環日本海環境協力センター 野田理男常務理事及び(財)自治体国際化協会ソウル事務所 浅井所長補佐が同行した。

(イ) 派遣内容

江原道との実務協議においては、環境情報の交換を行ったほか、江原道の北東アジア地域自治体連合環境分科委員会への加入を要請した。江原道からは、国際的なつながりは必要と考えており、来年度検討したいとの返答があった。

環東海出張所とは、第2回海洋保全国際シンポジウムを、来年度は富山で開催することなどを協議した。

海洋保全国際シンポジウムでは、泉田参事が挨拶を行った。また、本シンポジウムでは、富山県側から、富山県の海岸保全事業(松木河川課長)、富山湾の水質汚濁対策(岩田環境保全課主幹)、(財)環日本海環境協力センター事業(野田常務)の報告・討論を行った。

ウ 環境実務協議団の受け入れ

(7) ロシア自治体からの環境実務協議団の受け入れ

a 受け入れ期間

2002年7月10日～13日

b 受け入れ者

沿海地方政府

天然資源委員会委員長 カリナオーキ
ー A.I

ハバロフスク地方政府

天然資源省第一副大臣 クリュコフ
V.G 環境保全局長 ロプキス V.I

サハリン州

天然資源委員会環境安全課長 コステ
ンコ G.A

c 受け入れ内容

2002年度の海辺の埋没・漂着物調査や渡り鳥に関する共同調査の実施方法等について協議した。

(イ) 韓国自治体からの環境実務協議団の受け入れ

a 受け入れ期間

2002年7月13日～15日

b 受け入れ者

忠清南道

福祉環境局長 宋 錫斗
福祉環境局環境管理課 環境主事
柳 在浩

c 受け入れ内容

海辺の埋没・漂着物調査への忠清南道の参加及び北東アジア地域自治体連合環境分科委員会の活性化(韓国自治体の参加要請等)について協議した。

(イ) 中国自治体からの環境実務協議団の受け入れ

a 受け入れ期間

2002年7月10日～12日

b 受け入れ者

遼寧省環境保護局副処長 黄 志強

c 受け入れ内容

2002年9月に遼寧省で開催する「都市環境システム国際シンポジウム」への富山県の参加、海辺の埋没・漂着物調査への参加及び実施方法について協議した。

(4) 各種会議への参加

ア 海洋環境 2002 国際会議

海洋環境 2002 がロシアのウラジオストク市で開催され、当センターから 2 名が出席した。

(ア) 期 日：2002 年 10 月 17 日～18 日

(イ) 場 所：国立海洋大学（ウラジオストク市）

(ウ) 主 催：国立海洋大学

(エ) 参加者

国立海洋大学、ロシア科学アカデミー等の研究者、行政機関、海洋関係の財団及び企業等の関係者等 約 30 名

(オ) 会議内容

a 海洋の汚染モニタリングについて

海洋の石油汚染を把握するため船舶やブイに A.I.S（自動 ID システム）汚染測定用センサーを配置することで、湾の重油汚染情報を発信し、リアルタイムの測定が可能になったことが報告されたほか、海洋汚染のシュミレーションソフトの開発や、石油汚染土壌の生化学処理技術の開発についての発表があった。

b 会議宣言

今後 2 年ごとに海洋環境国際会議を開催すること、複数のワーキンググループを設置して活動を進めていくこと、環境諸問題の情報バンクを作ることなどの宣言が行われた。

イ 環日本海環境協力会議

1992 年に新潟県で開催されて以来、北東アジア地域の環境協力推進及び各国の環境保全に関する情報交換の場となってきた「環日本海環境協力会議」の第 11 回会合が中国海南島において開催され、当センターから発表者 1 名のほか 2 名が参加した。

(ア) 期 日：2002 年 12 月 5 日～6 日

(イ) 場 所：中国海南島

(ウ) 主 催：中国国家環境保護総局

(エ) 参加国：日本、韓国、モンゴル、ロシア、

中国

(オ) 参加者

各国政府及び地方公共団体の行政担当者、研究者、関係国際機関（UNESCO、UNEP、ESCAP）、各国の NGO 等 約 50 名

(カ) 会議内容

a 各国による環境政策を巡る状況報告

b 公開シンポジウム「環境教育と環境意識啓発」

(a) パート 1 日本：甲南大学谷口文章教授

(b) パート 2 日本：

大妻女子大学岡島成行教授

c セッション 1 「水環境の改善」

日本：(財)環日本海環境協力センター
白山肇副主幹研究員

d セッション 2 「都市部における大気質の改善」

日本：兵庫県立健康環境科学研究センター
吉村陽研究員

e セッション 3 「ヨハネスブルグサミットと北東アジア環境協力」

日本：環境省小川晃範環境協力室長